

平成 26 年 8 月 26 日

各 位

岡山県立矢掛高等学校

校長 川上公一

第 59 回全国高校軟式野球選手権大会の御報告と御礼

残暑の候、皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、8 月 25 日に兵庫県明石、高砂両市で開かれる第 59 回全国軟式野球選手権大会に初出場することができました。

今回の出場を勝ち得たことは、選手たちの日頃の努力の成果ではございますが、いつも皆様方からお寄せいただく温かいご声援の賜物と、関係者一同深く感謝申し上げます。

本校は兵庫県高砂市野球場で 1 回戦、北東北代表秋田県立能代高校と対戦しました。息詰まる投手戦となり、0 対 2 とリードされた終盤、矢掛らしい粘りを見せ 1 点差まで追い上げましたが、善戦むなしく 1 対 2 で惜敗しました。

また、生徒・保護者・同窓生・地域の皆様の心温まる応援に対しまして、日本高等学校野球連盟よりお褒めの言葉を頂きました。

皆様の御支援によって、無事第 59 回全国軟式野球選手権大会を終えられたことを御報告申し上げるとともに、今後とも、より一層の御理解と御支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げて御挨拶いたします。



第50回全国高校軟式野球選手権大会当日、兵庫の明石ト・カロ球場などで開戦して同戦4試合が行われ、初出場の矢野中・岡田山は1-2で能代（北東北・秋田）に惜敗した。2年ぶり7度目の優勝を目指す中京（東海・岐阜）のほか崇徳（西中国・広島）文徳（前・部九州・熊本）が準々決勝に進出した。四・五回に1点ずつ失った矢野は、八回に逆

須の満時打で1点差に迫り、九回も死一、一塁と取めたが及ばなかった。中京は94年より、出場した河津（大阪）に延長十一回、2-1で勝利した。崇徳は上田西（北信越・長野）を2-1で退け、2012年準優勝の文芸は早大学院（東京）を7-6で破った。

大会は16校が参加し、20日に決勝が行われる。

で、「二、三を埋めたが、五回に亘り集めて決まらぬ。追いつけなかつた。右腕の腫波は再三患者を背負ひながらも粘死。四回に失禁で先制を許したものの、七回又死。三、三のビシ子は盲腸腫井の好守で取り返した。

（村上達也）

【評】矢掛は終盤の粘りも一歩届かなかった。0-2の八回、河合の右九回は2死から連続四球

あのとき同に状況だった。矢張り1点を追う九回に死打から代打西野が四球で出塁し、続く代打の東に入ったぞー!。約2週間前の東中国大会決勝は九回と死打から四球をきっかけに1点を差を逆転しており、この日も押せ押せムーに。だが追撃は届かず一勝たせてやれず、悔しい。吉岡監督は選手をなだめた。

初出場のインを優勝しようとして、三塁側スタンドはバス6台で駆け付けた生徒や町民ら約2000人で埋まった。しかし、相手は2度の優勝を誇る鶴代。全国舞台のムードにもまれ、序盤は動きに硬さがあった。攻守にミスが重なり、2点の先行を許してしまった。

それでも諦めない。八回、先頭の河合は、縋めにいた右翼手の前への一打で試合直後の涙は笑顔に変わつていた。(村上達也)

矢	掛	打安点
③	那須	411
④	井	400
⑤	長谷川	300
⑥	山本	410
H	野	100
R	野	000
⑦	野	000
7	小川	200
8	奥	100
H	合	000
⑧	波出	410
①		200
②	小	100
	計	263

船名	代理店	打安点
①	相沢	110
②	大塚	811
③	戸松	810
④	桜井	400
⑤	信太	400
⑥	大井	810
⑦	尾玉	800
⑧	後藤	820
⑨	佐々木	110
	計	2571

矢4711360
振球機器失残併
船2262170

